

平成30年度8月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成30年8月6日（月）午後1時00分～1時45分
場所 市役所2階 第3委員会室
出席 市政記者クラブ 11社

会見内容

1. はじめに

- 昨日で無事に第71回くしろ港まつりが、天候にも恵まれ、事故もなく終えることができました。賑わいなどの発信をしていただきまして感謝いたします。
- 西日本豪雨で亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された3千人あまりの方々に心よりお見舞いを申し上げます。
- このような中で、市といたしましても今回広範囲で行われた、いろいろな災害の対応策などについて、各部署で集めています。
- やはり情報発信がどのような形で行われて、その結果がどのようなになったのかということが重要であるということで今情報を集めています。
- 先だって広島市では、要介護者に対して送信した一斉メールが届かなかったというニュースがありました。このことを見てみると、本来メールが届くことになっていたはずが、届かなかったというシステムの問題ということがポイントになると思いますが、逆に言うと対象者の数はわかりませんが、広島では全員にメールが届くシステムができているということであれば、この対応というのは非常に有効な形のものになります。今回の各自治体における出来事について、しっかりと情報を取って、このことを我がまちの現状の情報発信の仕組みであるとか、対応の仕組みなどとマッチングさせていきながら、どういう対応ができるかということで、今指示しながら進めているところであります。

1. 話題提供（1項目）

1. 緑ケ岡・貝塚ふれあいセンターオープンについて

- 複合公共施設整備事業 第1号となります、「釧路市緑ケ岡・貝塚ふれあいセンター」につきましては、本年8月27日（月）に供用開始となり、9月8日（土）午後1時30分よりオープニングセレモニーを執り行います。
- オープニングセレモニーにつきましては、緑ケ岡・貝塚地区の地区連合町内会や、緑ケ岡児童館を利用する児童など地域の方々にお集まりいただき、テープカットによる施設のオープンに始まり、施設の建設に携わった方々への感謝状の贈呈や、新たな施設を祝って児童によるアトラクションが披露されます。
- 本「緑ケ岡・貝塚ふれあいセンター」は児童館機能と地区会館機能を併せ持った

複合施設として、児童の健全育成の場として、また、子どもから高齢者まで多世代が交流する拠点として、地域のコミュニティ形成を期待しています。

- 今回、「緑ヶ岡・貝塚ふれあいセンター」の事業計画から開設に至るまで、緑ヶ岡・貝塚地区連合町内会 千葉光雄会長、緑ヶ岡会館運営協議会 阿部二男会長、貝塚会館運営協議会、緑ヶ岡児童館運営協力会 畑中優周会長など地域を代表する皆さんから、ご協力をいただいたことにつきまして感謝申し上げます。
- また、「(仮称)松浦地区複合公共施設整備事業」では、川北会館・鉄北みどり会館と松浦児童館を合わせた複合施設を計画しており、本年7月24日に実施設計業務の契約を締結し、来年度(平成31年度)に着工、平成32年の秋ごろの完成を目指しております。
- なお、今後につきましても、公有資産マネジメントの成果などを見ていながら、しっかりと進めていきたいと考えております。

2. その他(3項目)

1. 釧路市ビジネスサポートセンターk-Biz(ケービズ)並びに記念シンポジウムの開催について

- 8月21日(火)に釧路市ビジネスサポートセンターk-Bizがオープンいたします。
これを記念して、オープン前日の8月20日(月)午前10時より、ANAクラウンプラザホテル釧路にて、シンポジウムを開催いたします。
- シンポジウムでは、k-Bizがモデルとする富士市産業支援センターf-Biz(エフビズ)の小出宗昭(こいで むねあき)センター長と、岡崎ビジネスサポートセンターOk-Biz(オカビズ)の秋元祥治(あきもと しょうじ)センター長をお招きして、f-Biz流の支援を説明するトークセッションや、k-Bizに期待する役割についてのパネルディスカッションを行います。
- f-Bizが成果を出し続け、全国から注目を集めているのはなぜなのか、そのf-Bizをモデルにk-Bizはどのような支援を行っていくのか、さらには、支援の中心を担う澄川(すみがわ)センター長はどのような人物なのか、これらの点をお聞きできる絶好の機会となりますので、特に、k-Bizの支援対象である中小企業、個人事業者、創業希望者の皆さんにご来場いただきたいと思います。
- また、8月21日のセンターオープンに際しましては、開所前の午前8時45分から、報道機関の皆さま向けにセンター内部を公開するとともに、お一人目の相談者様と澄川センター長、釧路市ビジネスサポート協議会の皆さまと私を交えた記念撮影のお時間を設定いたしますので、オープン当日の取材方もよろしくお願いたします。

2. 夏のUIJターン就職個別懇談会の開催について

- 市では、市内中小企業への就職及び人材定着の促進を目的として、多くの方の帰省が見込まれる、お盆時期の8月10日（金）と8月12日（日）に「夏のUIJターン就職個別相談会」を開催いたします。
- 本事業は、平成28年1月より、市と一般社団法人 北海道 中小企業家 同友会 くしろ支部との連携により、お正月とお盆時期の年2回、実施しており、これまで参加者47名のうち14名の方が就職されています。
また、昨年度の「夏のUIJターン就職個別相談会」では、1日間だけの開催ではありましたものの、11名の方にご参加いただき、そのうち、4名の方が市内の企業へ就職されております。
- 本年度は、より多くの方に相談会に参加していただけるよう、開催日程を1日増やし、計2日間の開催としております。
また、現在働いている方にも多く参加していただけるように、開催日を日曜日にも設定したところであります。
- 当日は、相談にいらした方に対し、相談員が希望の職種や就労条件などを伺いながら、「情報シート」の作成をお手伝いし、後日、市内企業約400社とのマッチングを行います。
- また、昨年度も開催いたしました、市内企業約50社による合同企業説明会につきましても、相談会と同日の8月10日（金）に開催することとなっており、道央圏を中心とした大学等にも周知させていただいております。
- 1人でも多くの方が希望する市内企業への就職につながることを望んでおります。
なお、個別相談会と合同企業説明会の参加には、履歴書は必要ありませんので、市内企業への就職にご興味のある方は、お気軽にご参加いただければ幸いです。

3. 阿寒湖フォレストガーデン駐車場竣工式について

- 最後に阿寒湖フォレストガーデン駐車場竣工式についてです。
このたび、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構が事業主体である阿寒湖フォレストガーデン駐車場が完成し、竣工式が執り行われます。
竣工式は、8月11日（土）午前11時より、阿寒湖フォレストガーデン駐車場にて開催し、アイヌ式の儀礼である「カムイノミ」にて執り行われます。
- 阿寒湖フォレストガーデンの整備事業は、阿寒湖を訪れる観光客をお迎えするウェルカムゾーンにふさわしい駐車場、園地等の整備を図り、運営は民設民営方式で行う、民間活力を活かした事業として展開するものです。
- 用地の確保については、土地所有者である一般財団法人 前田一步園財団のご協力をいただいております。
整備の財源は入湯税の超過課税分を積み立てる釧路市観光振興臨時基金による補助金が充当されております。
- 本日本日お集まりの記者の皆様におかれましては、ぜひ当地に脚を運んでご覧いただきたいと思っております。

3. 質疑要旨

(質問)

- ・ 災害時の情報発信などについて、各部署に情報収集するよう指示を出して今後対応を図っていくということですが、それについての集約などの目途としてはいつごろになるのでしょうか。

(市長)

- ・ 期限は定めていませんが、まずはしっかりと情報を集めていくということです。今回の豪雨災害では、情報発信としてSNSやメールなど、さまざまなケースがありました。そこで私たちのところが取れるものだけではなく、ふだんお付き合いしている方からも、どのようなものが有効であったのかという情報もいただきたいということと、あわせて釧路市防災会議の関係機関からの情報も教えていただきたいと思っています。

私たちが今まで行ってきた今までの考え方と、現実的にそれをどのような形で合わせていくかという作業を行っていきたいと考えています。その中で情報提供を求めているところです。たとえば電話で確認する場合の時間の問題や、それをどう行っていくのか。それを行うためには、すぐ出来るのか、または数年かかるのか、いろいろと協力をいただきながら進めていかなくてはならないと思っています。

(質問)

- ・ 市立釧路総合病院の関係で、提訴してから1週間が経ちましたが、その後業者からの反応などはあったのでしょうか。

(津田部長)

- ・ まだ代理人である弁護士からも、相手に訴状が届いたという報告はありません。

(質問)

- ・ 新しい計画を同時進行で着手するということでしたが、現在はどのようになっているのでしょうか。

(市長)

- ・ 今月中に病院長や幹部と相談する機会を設けていくということで、日程調整を行っています。

(質問)

- ・ 北海道では地域医療構想の会議の中で、釧根地域は5年先を視野に入れた場合に、高度医療が必要あるのだろうかという話が行われていたのを耳にしたのですが、当然総合病院が地域の基幹病院としてリード役を果たすというのはわかりませんが、市内には他にも高度な医療を提供する病院がある中で、今後、市立病院の位置づけというのはどのようになるのかということ、もう一度見つめなおす可能性はありますか。

(津田部長)

- ・ 先日行われた北海道の地域医療構想の会議の中で、将来のかなり先の話をしたのだと思います。当面、高齢者が増えていく中では、逆に患者の数が一定程度増えるであろうという推計の話ではなかったかと思います。当面やはり市立病院としての高度救急医療の必要性というのは、これまで以上にあると受け止めています。

(質問) 釧新 高田氏

- ・ ピーチにはカテゴリーⅢBが対応していないということですが、釧路総合開発促進期成会が長年、カテゴリーⅡの整備を国に要望していますが、今後ピーチや国際チャーター便が飛んでくれるためには、カテゴリーⅡは必要だと思います。この認識と現在の状況についてお聞きしたい。

(市長)

- ・ 計器誘導装置カテゴリーⅡの整備につきましては、厳しい状況ではあります。釧路空港は土を盛って作っていますので、この設置にも盛り土が必要です。これにはまた費用がかかるという地形的な問題があります。

過去の流れを見てみますと、カテゴリーⅡを検討したところ、同様に盛り土が必要であるということで、世界最高水準であるカテゴリーⅢBを導入していこうということで整備されました。

その状況を踏まえていく中で、私どもは利活用、空港の利便性を高めていくためには、世界標準であるカテゴリーⅡの配置が必要という話をしています。世界標準の計器誘導装置を導入するという趣旨ですので、現状の日本の中のCATⅡの仕組みはこのようになっているということですが、外国を見てみると、ちがう手法があります。ただ安全基準を損ねることにはならないと思います。世界のいろいろな世界基準を、日本としてどう投入していくのかという議論になるかと思いますが、私どもとしては標準の整備というものを、今回も要望の中に入れながら、航空局をはじめ、国土交通省にも要請をしているところです。

ただ過去の実績で言いますと、台湾の復興航空がチャーターで約1年半飛んでいました。これもCATⅢに対応していませんでしたが、その時には欠航が1回もありませんでした。要望については今後も継続していきます。

(質問)

- ・ 市立病院についてですが、一定の結論が一審で出た段階で、契約に関するトラブルについては、そこで終わらせて、新しい計画に進んでいくという考えでしょうか。

(市長)

- ・ 私どもが提訴しているのは、損害賠償を求めているので、トラブルという認識になるのか。これはちゃんとした契約に基づいたことを、なぜ行わないのかという形の中で、さまざま遅れ、そして今まで説明したことが、できなくなる。こういった状況の中で、契約解除という形を取った中で、損害賠償を求めたものでございます。この件については、司法の中でしっかりと対応していくということです。病院の新たな計画と、裁判とはリンクするとは考えていません。

(質問)

- ・ 議会や市政懇談会の場で、これまでの議論を最大限活かす形で、次に進んでいくという説明をしています。あらためて説明責任と結果責任についての考えをお聞きしたい。

(市長)

- ・ 行政がやろうとしていることはすべて、市民から預かったお金ですので、中身についてはしっかりとわかりやすく説明していくという考え方をずっと言っています。そのような観点の中で今回も説明してきました。

今まで病院の先生方からいろいろな意見をいただいて、その意見を具現化したものが設計であると思っています。その設計の形の中で出来上がらないという状況です。委託契約というのは、金額とか期間とかを決めた中で、どのようにするかと進

めていくものです。

(質問)

- ・ イトーヨーカ堂の釧路店についてですが、今後閉店する店舗の候補に釧路店が入っているようで、来年早々にも閉店する検討が進んでいるという話です。テナントとして入っている方も含めて、200人程度の雇用があるようですし、公共交通の再編についても、拠点となる場所となっており、まちづくりとして影響があると思いますが、どのように考えていますか。

(市民生活課長補佐)

- ・ その件につきましては、担当課にも何も情報が入っていないと聞いていまして、現在情報収集を行っているとのことでした。

(市長)

- ・ 今後担当課のほうでお話を受けることと思いますので、わたしどももしっかりと情報を収集して、その上で対応していきたいと思っています。

(質問)

- ・ JRの支援の関係で、先だって2019年度と2020年度の、国の400億円超の財政支援が組まれるという話でまとまりました。ただ負担割合等々は見えていませんが、これに対しては市長会や期成会の中での取り組みになると思いますが、どのように感じていますか。

(市長)

- ・ これについては、まさしく知事、北海道町村会などのコメントがベースになってくるものでして、まさしくこれからしっかりと議論がスタートしていくと考えています。今後どのような形の中で進めていくのか、細かい中身を見ていくことになると思います。国と同様の支援を自治体のでもということについても、どんな部分で進めていくのか、例えば鉄道の高速度の時の枠組みというものもあるし、まだわかりませんので、まず大きい枠組みとしては2か年で、国として大きな支援を進めていくということが決まりながら、この間で、わたくしたちがJR北海道を含め要請しているのは、2030年の札幌延伸を見据えた中で、ということでありますけれども、それまでの2年間という受け止め方をしていきながら、町村会、北海道、JR北海道を含めながら、一体となって維持していくという観点の中で、これからさまざま相談していくことになると思っています。